

枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

福岡の第98回が成功裡に済んだと思つたら、すぐ第99回の学会の準備と、期間が半年程しかないから、会員諸兄姉は慌ただしことであろう。松木会長は医史学会としては恐らく初めてと思われるきれいなポスターを作つて函館へのお誘いを呼び掛けている。

論文のデータベース化に伴つて、従来のタイトルだけのものではなく、キー・ワードやあるいは抄録を付けることで、より充実した文献資料を作ることを考える時期が来たように思われる。福岡の理事・評議員会で編集委員会から検討課題として提案した。皆さんのご意見を頂きたい。そして同意が頂ければ、いつから始めるかの検討に移らなければならない。投稿の具合から見ると、少なくとも一年はゆとりを見ておかなばならないだろう。

嬉しいことに、このところ原著や研究ノートの投稿が多く、雑誌の厚さだけでなく、中身もずつしり手応えがある。と同時に、すぐに掲載できないという悩みも生じてきた。もちろん査読という手続きにある程度の時間を要することも理解していただきたい。

この号でお気付きと思うが、会則が載っていない。投稿規定は毎号のせるが、会則は年一回でよいのではないかと言う考えによる。その分だけ多くの紙面を記事に使いたいという意欲的な取り組みである。

第100回も間近に迫ってきた。歴史を専門にする学会が自らの歴史を刻むと同時に、大きな飛躍を持ちたいものである。

(大村 敏郎)